

## 2 麦 類

### (1) 要 旨

#### ア 作付面積

平成17年産4麦（小麦、二条大麦、六条大麦及び裸麦）の子実用作付面積は26万8,300haで、前年産に比べて4,100ha（2%）減少した。（表2-1、図2-1）

#### イ 収穫量

平成17年産の4麦の収穫量は105万8,000tで、前年産並みとなった。

また、田畑別の収穫量は、田作が57万5,100tで前年産に比べて5,900t（1%）増加し、畑作は48万3,200tで前年産に比べて6,500t（1%）減少した。

なお、4麦の主産県における被害率は、小麦15.3%、二条大麦17.6%、六条大麦20.3%、裸麦36.3%となった。

図2-1 4麦の作付面積及び収穫量の推移（全国）

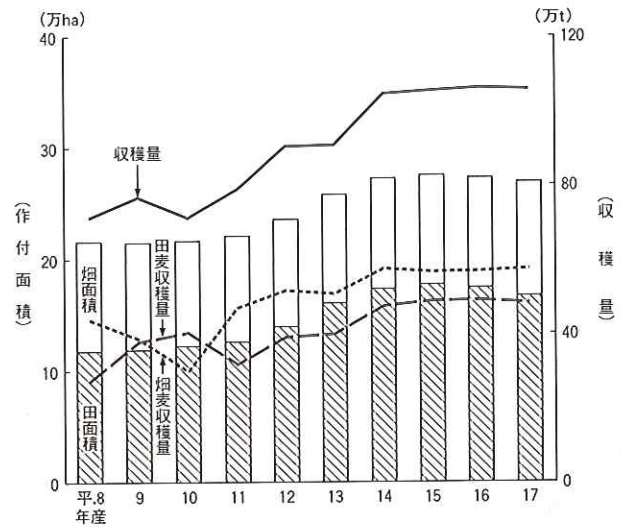


表2-1 平成17年産4麦の収穫量

区 分	平成17年産				前年産との比較					被害(主産県)		
	作付面積	10a当たり収	収穫量	(参考) 10a当たり 平均収量 対比	作付面積		10a当たり 収 対比	収穫量		被害量	被害率	
					対差	対比		対差	対比			
	百ha	kg	百t	%	百ha	%	%	百t	%	百t	%	
全 国	4麦計	2683	...	10580	...	△41	98	...	△10	100	...	...
	小麦	2135	410	8747	108	9	100	101	144	102	1227	15.3
	二条大麦	348	357	1243	101	△24	94	101	△76	94	213	17.6
	六条大麦	155	303	470	95	△21	88	104	△42	92	89	20.3
	裸麦	45	267	121	80	△5	90	87	△34	78	45	36.3
北 海 道	麦計	1179	...	5477	...	16	101	...	△192	97	...	...
	小麦	1155	468	5401	111	15	101	96	△181	97	740	15.3
	二条大麦	23	329	76	95	△1	97	90	△11	88	19	23.3
都 府 県	4麦計	1505	...	5104	...	△56	96	...	181	104	...	...
	小麦	980	341	3346	103	△6	99	111	325	111	487	15.2
	二条大麦	325	359	1167	101	△23	93	101	△65	95	194	17.2
	六条大麦	155	303	470	95	△21	88	104	△42	92	89	20.3
	裸麦	45	267	121	80	△5	90	87	△34	78	45	36.3

注：1 この統計表は、子実用である。  
2 被害の主産県とは、麦種別に前年産の作付面積が500ha以上の道県をいう。  
3 被害率は、被害量÷平均収量×100である。

表 2-2 平成17年産 4 麦の収穫量 (全国農業地域別)

全 国 農 業 地 域	4 麦 計		小 麦				二 条 大 麦				六 条 大 麦				裸 麦			
	作付面積	収穫量	作付面積	10 a 当たり 収 穫 量	収 穫 量	(参考) 10 a 当たり 平均収 穫量比	作付面積	10 a 当たり 収 穫 量	収 穫 量	(参考) 10 a 当たり 平均収 穫量比	作付面積	10 a 当たり 収 穫 量	収 穫 量	(参考) 10 a 当たり 平均収 穫量比	作付面積	10 a 当たり 収 穫 量	収 穫 量	(参考) 10 a 当たり 平均収 穫量比
	百ha	百t	百ha	kg	百t	%	百ha	kg	百t	%	百ha	kg	百t	%	百ha	kg	百t	%
全 国	2 683	10 580	2 135	410	8 747	108	348	357	1 243	101	155	303	470	95	45	267	121	80
北 海 道	1 179	5 477	1 155	468	5 401	111	23	329	76	95	-	-	-	-	-	-	-	-
都 府 県	1 505	5 104	980	341	3 346	103	325	359	1 167	101	155	303	470	95	45	267	121	80
東 北	103	180	88	152	134	61	-	-	-	-	15	315	46	116	-	-	-	-
北 陸	74	176	0	x	x	x	0	117	0	70	73	240	176	81	-	-	-	-
関 東・東 山	453	1 720	264	378	999	99	129	382	493	99	58	387	226	107	0	350	1	95
東 海	145	446	143	308	440	107	0	188	0	100	2	251	6	90	0	267	0	134
近 畿	94	235	85	249	213	93	1	259	3	96	5	287	15	88	2	249	4	89
中 国	41	134	13	291	37	96	27	346	93	96	1	196	1	94	1	249	3	97
四 国	45	121	16	286	46	77	0	257	1	76	-	-	-	-	28	263	74	72
九 州	551	2 090	370	399	1 476	114	167	346	577	104	0	308	0	...	14	273	38	98
沖 縄	0	0	0	176	0	103	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注：この統計表は、子実用である。

## (2) 解 説

### ア 小麦

#### (ア) 作付面積

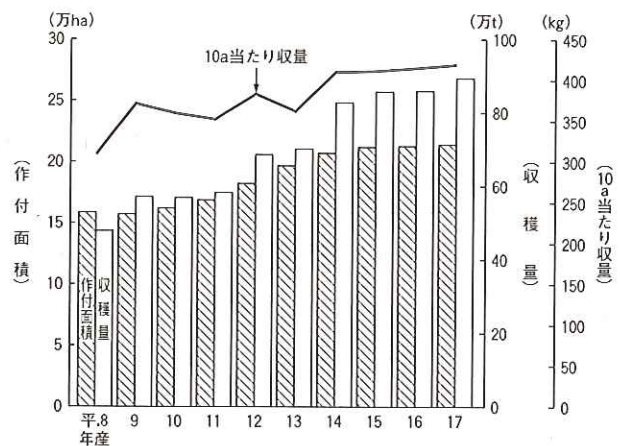
小麦の作付面積は21万3,500haで、前年産並みとなった。

これを、北海道、都府県別にみると、北海道は11万5,500haで前年産に比べて1,500ha(1%)増加し、都府県は9万8,000haで前年産に比べて600ha(1%)減少した。

これは、北海道では近年の作柄が安定していること等により増加し、都府県では九州等において二条大麦等からの転換により増加したものの、東海、近畿等において、は種期の天候不順による作付中止や他作物へ転換により減少したためである。

(表 2-2、図 2-2、2-3、2-4)

図 2-2 小麦の作付面積、収穫量及び10 a 当たり収量の推移 (全国)



#### (イ) 10 a 当たり収量

全国平均の10 a 当たり収量は410kgで、前年産を5 kg(1%)上回った。

なお、10 a 当たり平均収量対比は108%となった。

#### a 北海道

10 a 当たり収量は468kgで、作柄の良かった前年産を22kg(4%)下回った。

これは、穂数が確保され、開花・受精も順調であったものの、出穂以降干ばつ気味で推移したことや穂数過多のため細麦傾向となったためである。

なお、10 a 当たり平均収量対比は111%となり、作柄は前年産に引き続きおおむね良好であった。

b 都府県

10 a 当たり収量は341kgで、前年産を35kg（11%）上回った。

これは、は種期の降雨等による湿害の発生や、主に2月から3月の低温により生育の遅延、抑制がみられたものの、4月以降おおむね天候に恵まれ、生育が回復したことに加えて、登熟が順調であったためである。

なお、10 a 当たり平均収量対比は103%となった。

(ウ) 収穫量

収穫量は87万4,700tで、前年産に比べて1万4,400t（2%）増加した。

このうち、北海道の収穫量は54万100tで、作付面積は前年産に比べて増加したものの、10 a 当たり収量が前年産を下回ったため、前年産に比べて1万8,100t（3%）減少した。

一方、都府県の収穫量は33万4,600tで、作付面積は減少したものの、10 a 当たり収量が前年産を上回ったため、前年産に比べて3万2,500t（11%）増加した。

図2-3 平成17年産麦作期間の半旬別気象経過(帯広)

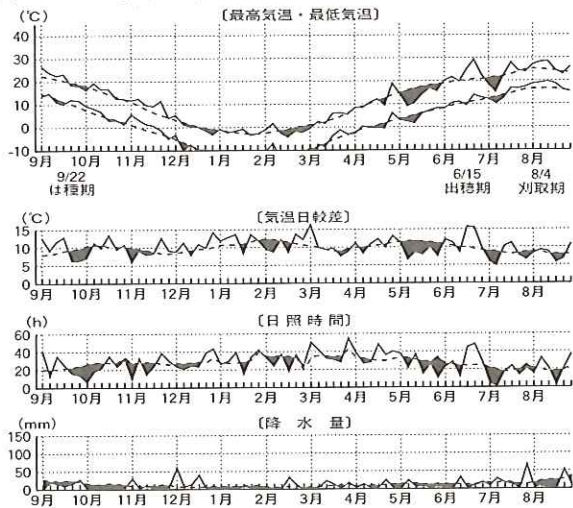
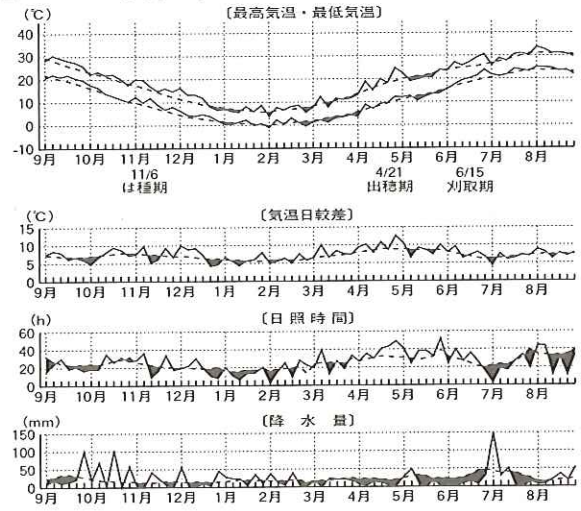


図2-4 平成17年産麦作期間の半旬別気象経過(彦根)





## イ 二条大麦

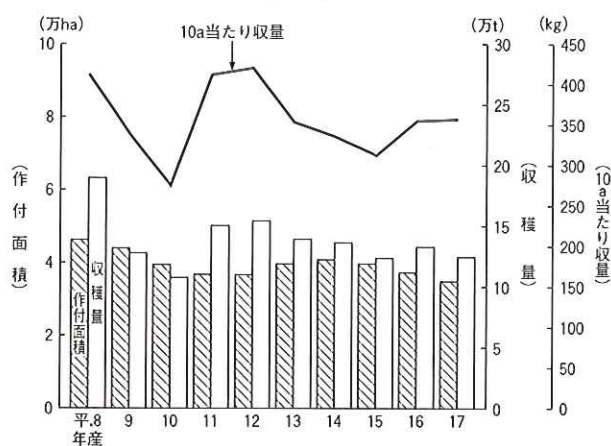
### (ア) 作付面積

二条大麦の作付面積は3万4,800haで、前年産に比べて2,400ha（6%）減少した。

これを、北海道、都府県別にみると、北海道は2,320ha、都府県は3万2,500haで前年産に比べてそれぞれ60ha（3%）、2,300ha（7%）減少した。

これは、九州等において小麦へ転換されたためである。（表2-2、図2-5）

図2-5 二条大麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



### (イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は357kgで、前年産を2kg（1%）上回った。

これは、都府県において、は種期の降雨等による湿害の発生や主に2月から3月の低温により生育の遅延、抑制がみられたものの、4月以降おおむね天候に恵まれ、生育が回復したことに加えて、登熟が順調であったためである。

なお、10a当たり平均収量対比は101%となった。（図2-6、2-7）

### (ロ) 収穫量

収穫量は12万4,300tで、前年産に比べて7,600t（6%）減少した。

このうち、北海道の収穫量は7,630tで、作付面積が前年産に比べて減少したことに加え、10a当たり収量も前年産を下回ったため、前年産に比べて1,080t（12%）減少した。

一方、都府県の収穫量は11万6,700tで、10a当たり収量は前年産を上回ったものの、作付面積が減少したため、前年産に比べて6,500t（5%）減少した。

図 2-6 平成17年産麦作期間の半旬別気象経過(宇都宮)

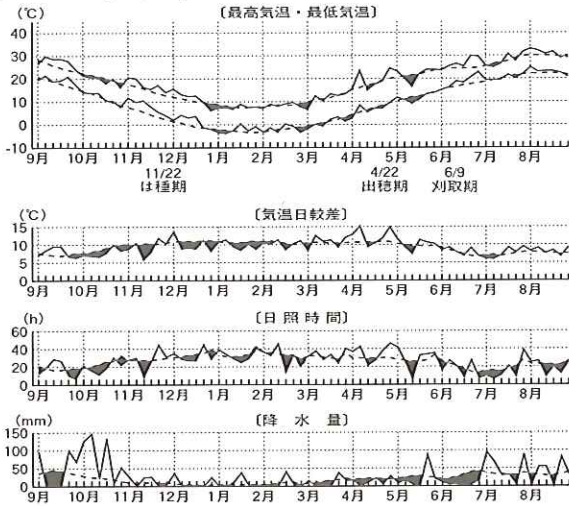
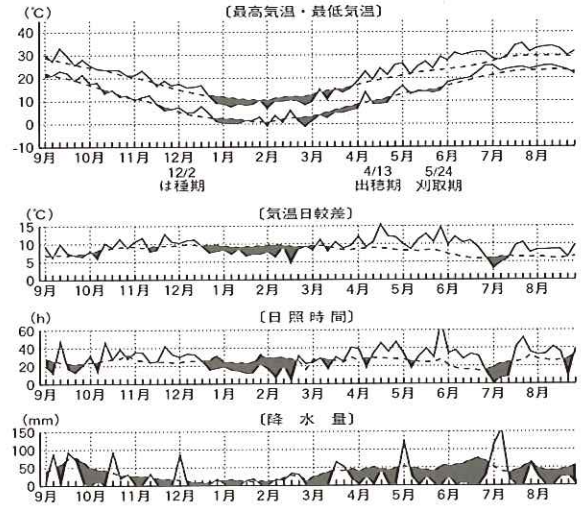


図 2-7 平成17年産麦作期間の半旬別気象経過(佐賀)



ウ 六条大麦

(ア) 作付面積

六条大麦の作付面積は1万5,500haで、前年産に比べて2,100ha(12%)減少した。

これは、関東・東山において他麦種への転換等があったことに加え、北陸において他作物へ転換されたためである。(表2-2、図2-8)

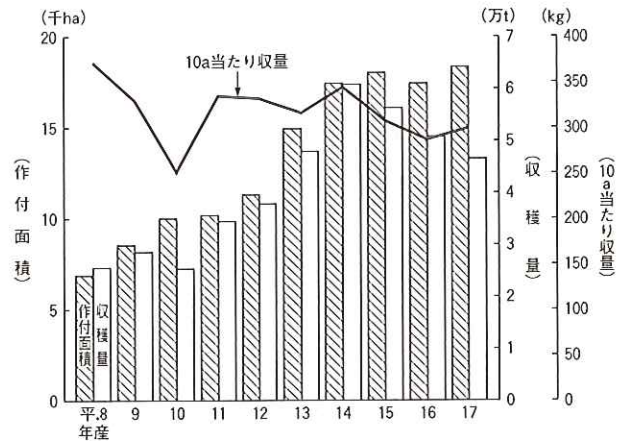
(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は303kgで、前年産を12kg(4%)上回った。

これは、全国的に、は種期の降雨等による湿害の発生により生育の遅延がみられたものの、その後、主に関東・東山地域で、おおむね天候に恵まれ、登熟が順調であったためである。

なお、10a当たり平均収量対比は95%となった。(図2-9)

図 2-8 六条大麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移(全国)



(ウ) 収穫量

収穫量は4万7,000tで、前年産に比べて4,200t（8%）減少した。

これは、10a当たり収量は前年産を上回ったものの、作付面積が減少したためである。

エ 裸麦

(ア) 作付面積

裸麦の作付面積は4,540haで、前年産に比べて520ha（10%）減少した。

これは、近年の作柄不良、は種期の天候不順による作付中止等があったためである。

（表2-2、図2-10）

(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は267kgで、作柄が悪かった前年産を更に39kg（13%）下回った。

これは、主に四国地域で、は種期の降雨による湿害の発生により生育が抑制されたためである。なお、10a当たり平均収量対比は80%となった。（図2-11）

(ウ) 収穫量

収穫量は1万2,100tで、前年産に比べて3,400t（22%）減少した。

これは、作付面積が減少したことに加え、10a当たり収量も前年産を下回ったためである。

図2-10 裸麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

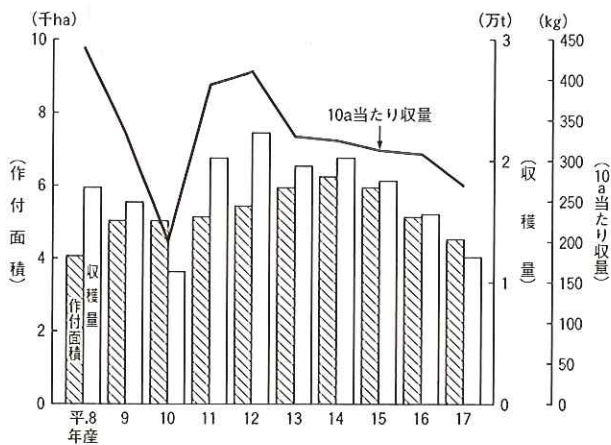


図2-9 平成17年産麦作期間の半月別気象経過（福井）

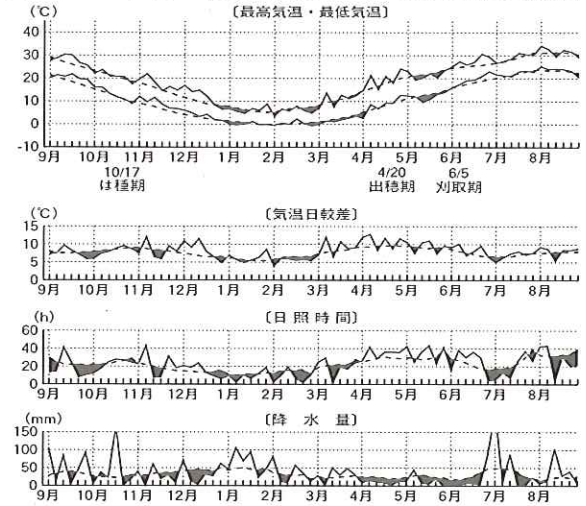
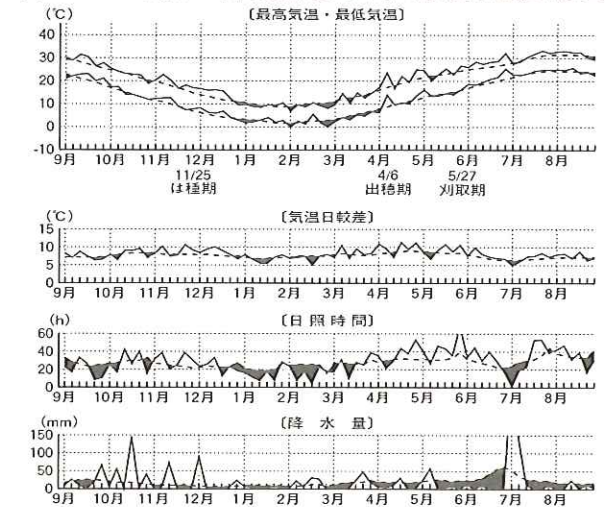


図2-11 平成17年産麦作期間の半月別気象経過（松山）





## オ 被害の発生

(ア) 主産県（麦種別に前年産の作付面積が500ha以上の県で、小麦は24道県、二条大麦は11道県、六条大麦は8県、裸麦は3県）

主産県全体における被害量は、小麦12万2,700 t、二条大麦2万1,300 t、六条大麦8,870 t及び裸麦4,470 tで、被害率はそれぞれ、15.3%、17.6%、20.3%、36.3%であった。

被害の種類として、小麦においては、北海道は風水害及び干害の発生、都府県は湿害の発生が主な要因であった。

また、二条大麦、六条大麦及び裸麦においては、湿害の発生が主な要因であった。

（表2-3、2-4）

(イ) 北海道

被害量は、小麦が7万4,000 t、二条大麦が1,900 tで、被害率はそれぞれ15.3%、23.3%であった。

小麦の被害量の内訳をみると、気象被害が7万1,300 tで被害量全体の96.4%を占めている。

(ウ) 都府県（主産県）

a 小麦

被害量は4万8,700 tで、被害率は15.2%であった。

被害量の内訳をみると、気象被害が4万4,700 tで被害量全体の91.8%、病害が1,820 tで同3.7%を占めている。

b 二条大麦

被害量は1万9,400 tで、被害率は17.2%であった。

被害量の内訳をみると、気象被害が1万8,300 tで被害量全体の94.3%、病害が894 tで同4.6%を占めている。

c 六条大麦

被害量は8,870 tで、被害率は20.3%であった。

被害量の内訳をみると、気象被害が8,280 tで被害量全体の93.3%、病害が284 tで同3.2%を占めている。

d 裸麦

被害量は4,470 tで、被害率は36.3%であった。

被害量の内訳をみると、気象被害が4,370 tで被害量全体の97.8%を占めている。

表 2-3 平成17年産 4 麦の被害

区 分	総 数		気 象 被 害		病 害		虫 害	
	被害量	被害率	被害量	被害率	被害量	被害率	被害量	被害率
	t	%	t	%	t	%	t	%
小 麦								
主 産 県	122 700	15.3	116 000	14.5	4 160	0.5	314	0.0
北 海 道	74 000	15.3	71 300	14.8	2 340	0.5	70	0.0
都 府 県	48 700	15.2	44 700	14.0	1 820	0.6	244	0.1
二 条 大 麦								
主 産 県	21 300	17.6	20 200	16.7	896	0.7	71	0.1
北 海 道	1 900	23.3	1 900	23.3	2	0.0	-	-
都 府 県	19 400	17.2	18 300	16.2	894	0.8	71	0.1
六 条 大 麦								
主 産 県	8 870	20.3	8 280	18.9	284	0.6	20	0.0
北 海 道	-	-	-	-	-	-	-	-
都 府 県	8 870	20.3	8 280	18.9	284	0.6	20	0.0
裸 麦								
主 産 県	4 470	36.3	4 370	35.5	26	0.2	11	0.1
北 海 道	-	-	-	-	-	-	-	-
都 府 県	4 470	36.3	4 370	35.5	26	0.2	11	0.1

注：主産県とは、麦種別に平成16年産の作付面積が500ha以上の都道府県をいう（以下の各表において同じ）。



表2-4 平成17年産4麦の被害（主産県・被害種類別）

	被害種類	被害面積	被害量	被害面積率	被害率
		ha	t	%	%
小麦	総気象被害	257 200	122 700	121.5	15.3
	雪風凍湿干そ	229 000	116 000	108.2	14.5
	水霜	16 200	5 720	7.7	0.7
	病害	63 600	48 300	30.0	6.0
	その他	1 970	386	0.9	0.0
	病	50 800	33 800	24.0	4.2
	さび病	76 500	25 000	36.1	3.1
	白濁	19 900	2 770	9.4	0.3
	赤か	16 300	4 160	7.7	0.5
	その他	1 670	162	0.8	0.0
	虫	2 180	317	1.0	0.0
	その他	3 460	610	1.6	0.1
	その他	8 990	3 070	4.2	0.4
	その他	2 680	314	1.3	0.0
その他	9 190	2 200	4.3	0.3	
二条大麦	総気象被害	43 400	21 300	116.7	17.6
	雪風凍湿干そ	37 100	20 200	99.7	16.7
	水霜	40	5	0.1	0.0
	病害	2 790	1 490	7.5	1.2
	その他	67	28	0.2	0.0
	病	21 800	14 800	58.6	12.2
	さび病	8 350	2 420	22.4	2.0
	白濁	4 030	1 430	10.8	1.2
	赤か	4 320	896	11.6	0.7
	その他	56	8	0.2	0.0
	虫	172	28	0.5	0.0
	その他	666	98	1.8	0.1
	その他	3 430	762	9.2	0.6
	その他	617	71	1.7	0.1
その他	1 350	162	3.6	0.1	
六条大麦	総気象被害	14 000	8 870	101.4	20.3
	雪風凍湿干そ	12 000	8 280	87.0	18.9
	水霜	65	23	0.5	0.1
	病害	798	352	5.8	0.8
	その他	743	141	5.4	0.3
	病	8 610	7 400	62.4	16.9
	さび病	467	289	3.4	0.7
	白濁	1 350	73	9.8	0.2
	赤か	668	284	4.8	0.6
	その他	96	14	0.7	0.0
	虫	70	14	0.5	0.0
	その他	74	25	0.5	0.1
	その他	428	231	3.1	0.5
	その他	89	20	0.6	0.0
その他	1 250	282	9.1	0.6	
裸麦	総気象被害	4 750	4 470	135.7	36.3
	雪風凍湿干そ	3 810	4 370	108.9	35.5
	水霜	-	-	-	-
	病害	455	670	13.0	5.4
	その他	10	0	0.3	0.0
	病	2 670	3 490	76.3	28.4
	さび病	96	25	2.7	0.2
	白濁	581	187	16.6	1.5
	赤か	265	26	7.6	0.2
	その他	24	1	0.7	0.0
	虫	31	2	0.9	0.0
	その他	55	9	1.6	0.1
	その他	155	14	4.4	0.1
	その他	112	11	3.2	0.1
その他	562	61	16.1	0.5	